

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105029		
法人名	株式会社 プリマ		
事業所名	グループホーム プリマホーム		
所在地	岡山市北区辰巳33-108		
自己評価作成日	令和3年5月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和3年8月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人と関わりや縁を大切に、入所者・職員共に事業所の中で穏やかな生活を送れる様支援しています。現在、新型コロナ感染対策で、面会や外出がままならない中でもご家族・顔馴染みとのつながりや関係や地域や外部とのつながりを絶やさず、入所者が閉塞感や孤独感を感じない様職員同話し合い工夫しています。職員は現在問題となっている感染対策について随時情報を取り入れ、入所者の健康確保と安心に向け実践し、より良い支援につなげています。また、中庭の花壇には、季節のお花や野菜と一緒に植え、日々の水やりを行っています。成長を散歩しながら観察し、入所者の皆様に収穫の喜びを感じていただいております。晴れの日には、デッキで日光浴をしながらお茶を楽しんでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370105029		
法人名	株式会社 プリマ		
事業所名	グループホーム プリマホーム		
所在地	岡山市北区辰巳33-108		
自己評価作成日	令和3年6月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和3年8月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

人と関わりや縁を大切に、入所者・職員共に事業所の中で穏やかな生活を送れる様支援しています。現在、新型コロナ感染対策で、面会や外出がままならない中でもご家族・顔馴染みとのつながりや関係や地域や外部とのつながりを絶やさず、入所者が閉塞感や孤独感を感じない様職員同志話し合い工夫しています。職員は現在問題となっている感染対策について随時情報を取り入れ、入所者の健康確保と安心に向け実践し、より良い支援につなげています。また、中庭の花壇には、季節のお花や野菜と一緒に植え、日々の水やりを行っています。成長を散歩しながら観察し、入所者の皆様に収穫の喜びを感じていただいております。晴れの日には、デッキで日光浴をしながらお茶を楽しんでいただいております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホーム長、管理者全職員がコロナ禍での暮らしに試行錯誤を繰り返しながら2年目を迎える中、長年の医療との連携で協力体制が整えられており、専門機関(病院など)による勉強会(高齢者施設における新型コロナウイルス感染者を含む感染対策)を開催するなど正しい知識を学びながら、適切な対応による円滑な運営がなされています。さまざまな工夫をこらし家族、地域、関係者の協力の下、落ち着いた雰囲気の中で普段と変わらない穏やかな生活をしている様子が窺えます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で生活できるように「御縁を頂いたお年寄りが、ご自分の新しい家だと思って頂けるよう努めます」を理念に地域に根差した暮らしを育む場として実践しています。また、朝礼や各ユニットで話し合い実践につなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としてご利用者が地域行事に参加できるよう、地域役員の方々や愛育委員の方々をかかわりを持ち交流できるように努めています。現在、コロナ禍のため自粛しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域役員の方々に運営推進会議に参加していただく、近隣の中学校の職場体験を通して、認知症の人の理解や支援方法を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において、地域役員の方々や地域包括支援センターやご家族様と書面会議で実行し、意見や報告をさせていただきサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の考え方や現場の実情等の質問や報告等は、その都度市町村担当者に電話対応などの的確なアドバイスをいただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍において、3か月に1回書面会議にて、身体的拘束適正化検討委員会を行っており、内部研修で身体拘束をしないケアの実践方法を勉強し、身体拘束ゼロに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待についての勉強を行い、日々のケアの仕方についても職員同士で互いに意識をし注意を払っています。定期的に職員にアンケートをとるなど、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会で学ぶ機会をもち、日常生活自立支援事業と成年後見制度を比較しながら実施主体・対象者・援助内容・手続きの流れ・利用料等制度について理解し、社会資源を活用して支援できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を理解・納得をしていただけるよう、その都度疑問点を尋ねながらわかりやすく丁寧な説明を心掛けています。また、同意書が必要な場合はその都度書面作成をし同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や介護計画の見直し時など、地域役員の方々やご家族様に意見や要望を聞くように努めています。意見や要望は、反映できるよう努め書面などで報告しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、業務の中や会議の中で意見や提案を聞いています感染症対策委員会など各係からの意見を聞き業務改善につなげ、日々の支援に努めています。代表者は会議などで運営に関する意見を聞き、反映できるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日々の業務の際に意見を聞き、現況の把握に努めています。働きがいのある職場づくりとして資格取得の際の研修費用負担や退職金制度を取り入れなど向上心を持って働けるよう支援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの目標をたて、職員を育てる取り組みがある。実践者研修・管理者研修・リーダー研修を受けることができる環境があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、コロナ禍のため自粛していますが、必要時や情報交換の際は、電話等で意見交換を行い、感染拡大予防やサービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所受け入れ時、職員が面会へ行き、入所時の不安が軽減できるように努めています。面会時のご本人の様子や希望など記録に残し、職員間で共有し、ご本人が安心できる環境づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調不良など変化があった時だけではなく、普段の面会時や電話で、近況報告や普段の様子を伝えていきます。また、ご本人様の笑顔がみられるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族からの話を傾聴し、ご本人・ご家族やケアマネージャーからの情報を基にカンファレンス会議を行い、必要としている支援を見極め、必要なサービスの提供ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念を基に、暮らす人・働く人・集う人で共に創る場として、支えあえる関係が築けるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族でご本人が安心して暮らせる環境を共に支援していくため、ご家族の要望やホーム側からの相談する機会をつくり信頼関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と協力し、ご本人が培ってきた人間関係が継続でき安心して頂けるよう知人の方が会いに来られたり、手紙や電話が出来る機会を設けています。また、自宅付近までドライブに出かけるなどの支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の特徴やご利用者同士の関係を把握し、会話ができる場の提供に努めています。「話したい人がいるから移動する」と言われ利用者同士がいい関わりができるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が電話や手紙などで現況を尋ねたり、機会を設け訪問などして退所後の経過を知るよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中でご本人の思いや意向を確認し、モニタリングの際にはご家族からも希望を聴き、介護計画に反映しています。職員同士で話し合い情報交換をして本人本位に検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの情報に記入していただいたり、ご本人・ご家族から今までの生活等のお話を聞き、生活スタイルや環境、それに伴う感情や思いを全職員が把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時には、個人記録や介護日誌を確認し申し送りをして共有しています。ご本人の生活スタイルを把握し、できる事・できない事の把握に努めています。バイタルチェックなどから体調の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または必要に応じてカンファレンスを開催しています。モニタリングを行い、ご本人・ご家族・かかりつけ医・訪問看護師の意向を伺っています。また職員による評価と課題をまとめて話し合い現状に合った介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、ご本人の思いや一日の出来事や気づいたことや話した内容や要望をその都度記入しています。また、よりよいケアに向けて実施表に記入しそれをもとにモニタリングをし介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や他の介護保険サービス事業所や医師等に相談し、必要なサービスが適切に受けられるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の生活を豊かに楽しむことができるよう訪問理由を取り入れて支援したり、体力づくりに取り組めるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望する病院に受診できるよう、その病院のかかりつけ医とホームが信頼関係を築きながらご本人の受診支援をしています。緊急連絡時にも往診して下さり適切な医療を受けられるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問では連絡シートを作成し訪問看護師がかかりつけ医にご利用者の状態を報告しています。職員は訪問看護師と日常生活の情報交換を定期的に行い、24時間体制で緊急連絡を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、かかりつけ医や訪問看護師からも情報提供をしていただき、担当看護師やソーシャルワーカーと直接連絡をとりアセスメント等の情報交換を行い早期退院ができるよう努めています。また、退院時のカンファレンスにも参加させていただき支援に取り組んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員は定期的に研修を行い、入所時や入所後は随時終末期のあり方の意思確認をしています。看取りの指針をもとにホーム内でできる事を明確にし、ご本人・ご家族・かかりつけ医・訪問看護師と話し合い、ご本人が納得のいく終末期を過ごせるよう支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適切な初期対応が行えるよう、マニュアルの作成をし、事例検討・内部研修・事故発生時の対応など職員一ひとりが対応できるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的ご利用者を含めた災害時の避難訓練を行い、ご利用者の状態を理解した避難誘導を全職員が対応できるように努めています。消防団や運営推進会議などの機会に地域の方々との連携体制を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した言葉遣いや接し方を行っています。また、一人ひとりのプライバシーに配慮した対応を心掛けています。対応や声掛けについて随時話し合っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声掛けを行い、ご本人が選択できるよう選択肢を設けたり、目で見て自己決定できるように働きかけています。また、問いかけに対して待つように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動や表情からこれから何がしたいのか声をかけたり見守りながら、一人ひとりのペースに合わせたその人らしい一日を送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前でくしを渡し、みだしなみを整え、男性はひげを剃り、服はご本人に選んでいただいています。外出する際には職員と一緒に髪型など身だしなみを整えたり、その人らしいおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活のうえで楽しみの一つでもある食事は、食べたいものなどリクエストに応じれるように心がけています。ご利用者と職員と一緒に皮むきなど料理を行っています。また、会話をしながら机拭きなど片づけなどを行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのその日の状態や病状に合わせた食事の提供をし、食事のカロリー摂取量や水分摂取量をデータ表で管理・情報共有し、栄養摂取や水分量の確保ができるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、介助の必要な方はできない部分を介助しています。口腔ケアを嫌がられる方にはお茶を召し上がっていただき、口腔内の残渣物がないようにしています。また、訪問歯科と連携をとり清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方にあったパットとトイレへの声掛けを行っています。出来るだけトイレでの排泄を行い、快適に過ごしていただけるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分を補給できるように、ご本人の好みに合わせた飲み物を提供し、牛乳やヨーグルトなどを召し上がっていただいています。便秘時にはかかりつけ医に相談し指示を受け、一人ひとりに応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の体調や一人ひとりの希望に合わせた入浴ができるよう支援し、また入浴前には必ず声掛けし無理に行わないよう心掛けています。入浴チェック表や個々の入浴時のこだわり等の確認事項を把握し気持ち良い入浴を支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣に合わせるため休まれる時間が違い、ご本人の様子をみて休んで頂くよう声掛けを行っています。体温調節が難しい方は室温をや衣類などで調整しています。夜間は照明等に気を付け安心して眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱に用意し、毎服薬係りを決め内服確認をしています。服薬カードに記載してある効能・副作用・用法や薬の必要性を理解しています。かかりつけ医や訪問看護師を連携しながら症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話などからアセスメントし、介護計画に沿いながら一人ひとりのできることややりたいことを把握し、歌やレクリエーションで楽しんで過ごしていただけるよう支援しています。入所前の趣味も継続できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナ禍のため自粛していますが、日々の会話などから行きたい場所を聞き、外出先を把握・下調べ・安全確認をし、ご家族や地域の方々に相談・協力していただきながら楽しい時間を過ごしていただけるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金の管理所持することは難しいが、使わなくても所持することで安心される方には小銭を所持できるよう支援しています。外出の際に希望するものや飲食ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望や状況に合わせて電話などのやり取りができるようご家族や知人の方と相談しながら、支援しています。話が聞こえにくい方には、職員が間に入り支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間であるホールは、明るい光が入る空間でソファで穏やかに過ごしていただけるような環境整備を心掛けています。、壁面には四季を感じられるような装飾を一緒に制作しています。快適な温度や湿度を保ち、居心地のよい空間づくりを心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたり、一人掛用のソファなどを利用しゆったり過ごされています。また、二人掛け用のソファやテーブルでは気の合う方と一緒に楽しい時間が過ごせるよう心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には、自宅で使用していた家具等を持って来られたり、テレビや写真や思い出の品を自由に飾るなど、ご本人が居心地よく過ごせるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合わせて、安全に自立した生活が送れるように家具の配置や押し車の置き場所にも配慮しています。、設備の配置等随時検討し、安全な環境整備を心掛けています。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な研修を行い、当ホームの理念への思いや希望をホーム長より伝えていただく事で、全職員が同じ思いでサービス提供できるようにしています。	全職員が入居者の介護計画を理解し、理念に基づいた支援に努めている様子が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、感染症対策のため日常的な交流は、行えておりませんが、つながりがとぎれないよう、話す機会があれば事業所として参加したり、意見交換しています。	コロナ禍での交流で近隣の小学校の学童が書いてくれた、たなばた飾りの短冊を入居者の書いた短冊と一緒に飾り、子供たちの願いを一つ一つ丁寧に読んで楽しい七夕の行事に、地域との交流の一環が窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった時には、随時対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、会議については書面で行っています。地域包括支援センターや市からの情報や地域の方々からの意見を聴きとり、サービス向上に活かしています。	通常の会議内容だけでなく、「高齢者施設における新型コロナウイルス感染者を含む感染対策について」というテーマで専門家から話を聞き研修し、運営推進会議を活かした活動に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の考え方や現場の実情等の質問や報告等は、その都度市町村担当者に電話対応などで的確なアドバイスをいただいています。	コロナ禍でコロナ関係の連絡が多い。それらを迅速に対応し、日常的に協力関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的・随時に研修を行い、身体拘束をしないケアについて考え、学び、取り組んでいます。また、意見や疑問がある時は、委員会話し合い正しい理解ができるようにしています。	「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を一人ひとりが理解し、「スピーチロック」などの具体的な検討を繰り返すことで身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的・随時に研修を行い日々のケアの仕方についても話し合っています。また、職員同士で互いに意識し、注意と払い、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会を行い制度や法律を知る事で必要な方々の活用ができるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を理解・納得をしていただけるよう、その都度疑問点や質問があるか尋ねながらわかりやすく丁寧な説明を心掛けています。また、同意書が必要な場合はその都度書面作成をし同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要時には、ご家族との話し合いの場を設けたり、面会や来訪時には、積極的に声を掛け、要望や意見などを反映させています。	ご家族の意見を聞く上で、認知症に対する理解を深めていただくよう努めています。中核症状や周辺症状などの図を用意し、十分なコロナ対策を講じ、ご家族同意の上、面談して説明に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的または随時、職員との話し合いの場を設け、提案や意見を反映できるようにしています。また、緊急時には、随時会議にて意見交換しています。	職員一人ひとりが入居者の介護計画を念頭において、個々の違った視点での支援で、意見交換できる環境が窺えました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況・接遇や職員一人ひとりの仕事への思いを知ろうと努力されています。職員からの意見はできるだけ対応し、職員が向上心を持てる環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修や外部研修への参加を促していると共に各自の自己評価表を作成し、働きながらトレーニングできるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、コロナ禍のため自粛していますが、必要時や情報交換の際は、電話等で意見交換を行い、感染拡大予防やサービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず本人と面談するために家や施設へ直接訪問し、その時の不安や困っていることに耳を傾け、気持ちに近づけるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談以外でも電話等でコミュニケーションをとりながら家族の不安や要望に耳を傾け、入所後も安心していただけるよう支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族以外の他のサービス機関と情報を共有しながら必要な支援について対応できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・片付け・洗濯など一緒に行えること、または利用時一人でも行えることは、行っていただき、「役にたっている」実感を得られるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの困っている事や、家族の要望を相談し、一緒に解決に向け取り組むことで共に支えている関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、面会や外出は行っておりませんが、知人や兄弟との電話対応を行い関係が途切れないよう支援に努めています。	コロナ禍ですので、外出や面会を制限せざる得ない状況の中、ドライブすることで馴染みの場所へ出かける(車内限定)支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席など工夫し、利用者同士の会話がはずむよう支援しています。また、会話が困難な時は、職員が間に入り、孤立感を感じさせないよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が電話や手紙などで現況を尋ねたり、機会を設け訪問に行くなどして退後の経過を知るよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必ず入所前に本人との面談や生活の場を確認させていただいています。希望や意向は直接聴き、検討や支援ができるよう努めています。	職員と入居者のコミュニケーションを大切にしたい取り組みが窺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に利用していたサービス機関や病院等との情報交換を行い、暮らし方の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を把握し、できる事・できない事の把握に努めています。また、職員で情報を共有し、統一した対応ができるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時にご記入いただいた「暮らしの情報」をもとに、入所後もできるだけ変わらない生活が送れるよう支援しています。	介護計画に基づいた日々のチェックリストを作成し記録をしています。その記録から、「何故できないか」、「何故しないか」を必要な関係者の意見も得ながら検討し、現状に即した介護計画を作成するよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた日々の観察や記録をもとに職員間で情報交換を行い見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護師・訪問歯科など必要に応じて受けることのできるサービスを利用したり相談・指導を受け対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、感染症対策のため買い物や外出など行えておりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、本人や家族の希望に沿い、相談して決めています。受診が困難な方には、往診もお願いし適切な治療を受けられるよう支援しています。	かかりつけ医や協力医に関わらず、事業所が信頼関係を築きながら入居者に配慮し、適切な医療を受けられるように支援している様子が窺えます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問日に直接相談したり、連絡シートを活用しています。また、気になることがあれば随時電話にて報告相談し、支持を受け支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、担当看護師やソーシャルワーカーと直接連絡をとることで、早期退院ができるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで「できる事」「できない事」を明確にし、本人・家族・主治医・訪問看護師と随時話し合い、医師確認を行っています。また、職員は、定期的に研修を行い、適切なチームケアと環境づくりに取り組んでいます。	医師や訪問看護師の協力の下、看取りを経験しチームで支援し取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適切な初期対応ができるようにマニュアルを作成し、定期的に転倒検討会や研修会を開いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼夜を想定した避難訓練を行っています。また、その結果からマニュアルの見直しを行っています。訓練の様子や課題は、運営推進会議などで発表し、意見交換を行い地域との関係を築いています。	水害による避難経験あり。隣のマンションに避難。その時の経験で用具や備品など必要な物は進んで用意している(段ボールなど蓄積)。昇降機のコンパクトなものも購入。「非常災害時の手順と物品の確認」と題し、職員一人ひとりに確認し振り返りをしています。	天災害を含め熱心且つ具体的に取り組んでいる様子が窺え、引き続き期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを損ねない声掛けや対応に努めています。本人が安心する声掛けを選び、声の大きさにも注意を払っています。	トイレへの誘導の声かけも、他の入居者に悟られないよう「トイレに行きます?」「おしっこ行く?」など、一人ひとりが違和感なく受け入れられることばを選び人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今したい事や本人が「選ぶ」事ができるような声掛けや対応を工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活パターンを把握し、本人のペースに合わせて生活ができるように支援しています。起床や食事・就寝の時間などは、できるだけ本人の希望にそように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを把握し、声掛けしながら衣類選び等行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が好きな方には、一緒に盛り付けや調理を行っています。また、週に数回は好きなメニューを決めて、満足していただけるように工夫しています。	庭にトマトやキュウリを栽培しそれら季節の食材を使って、一人ひとりの食べやすい柔らかさ・大きさに合わせ食事を楽しんでいる様子が窺えました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに必要な水分量・栄養バランスを考え、食事量を調節したり、必要な方には、栄養補助食品も摂取していただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。利用者一人ひとりにあったブラシや法補を考え、清潔保持が確実にできるような支援をしています。また、必要時には、訪問歯科とも連携しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者一人ひとりに合った尿パットの検討を行い、快適に安心して生活できるよう支援しています。排泄パターンを把握し、自立に向けた支援につなげています。	認知症に関わらず、高齢者にとって紙パンツや尿漏れパットなどを使用することで安心が得られるという感情は認知されてきています。入居者が快適に過ごせるよう、一人ひとりの意向を大切に支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・運動量を把握し、便秘にならないよう取り組んでいます。また、主治医や訪問看護師にも相談することで便秘の予防ができるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やご本人の希望に合わせた入浴を行っています。また、洗身や洗髪など、出来る場所は見守り、足りないところは支援を行っています。	入浴を面倒がる入居者も気持ちよく入浴できるよう、職員の持てるスキル・データに基づき気持ちよい入浴支援に努めている様子が窺えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせ、必要な時に休めるよう支援しています。また、照明や室温にも気を配り安心して眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の服薬の把握に努めています。薬の変更があれば、主治医・薬剤師・訪問看護師に相談しながら症状の変化を観察し報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前からの習慣や趣味など続けられるように、家族の協力を得ながら支援しています。また、中庭の散歩や歌を歌ったり、おやつ作りやゲームを行うことで気分転換できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、感染症対策で外出は控えていますが、中庭を散歩したり、テイクアウトを利用したり、外出気分をえられるよう工夫しています。	コロナ禍で自粛しているものの、外気浴の為デッキにでたり、気分転換になるので、車で花見をしたり(車内限定)、行きたいところに行けるよう支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持・管理する事は難しいが、本人からの買い物希望があった時には、一緒に行き欲しいものを購入できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族からの要望がある時には、随時、対応し支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が迷うものは置かず、スムーズに動けるよう配置しています。壁面や廊下には季節を感じれるものや写真を飾り楽しく移動できるように工夫しています。	広い居間と庭。庭にはデッキがあるのでいつでも出入りでき、閉塞感がありません。温度も共用空間、居室など入居者に配慮した調整がなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なじみの利用者同士が話しやすいよう同じテーブルの席を用意したり、ソファでゆったり過ごせるよう声掛けをしています。また、座席は固定せず、好きな時に好きな所へ行けるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたものや自宅に飾ってあったものを引き続きホームでも使用していただくことで安心できる工夫をしています。	ご家族と相談して入居者が不安にならないよう居心地良く過ごせるよう配慮しています。安全面を考慮して時と共に少しずつ取捨選択しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の目印や混乱を招くものを置かない事で、利用者が自立した行動ができるように工夫しています。また、利用者の動線を把握し危険物な物は取り除く事で安全な環境づくりを心掛けています。		